

2013年度

ニューサウスウェールズ大学 海外日本語教育実習報告書

UNSW

お茶の水女子大学

大学院日本語教育コース
グローバル教育センター
グローバル人材育成推進センター

<目次>

はじめに	1
【Part 1】	3
1. 実習の概要	5
2. UNSW の日本語教育	6
3. 実習の内容	10
4. 実習前後の活動	19
4.1. 事前研修	19
4.2. 日本語教育学実習	21
4.3. 事後研修	22
5. 実習以外の活動	23
5.1. 金曜 Meeting.....	23
5.2. 訪問先	23
5.3. NSA.....	25
5.4. 院生勉強会	26
【Part 2】	27
☺ 手続き	29
☺ 生活の知恵	30
☺ 実習を通して学んだこと.....	33
実習生のみなさんへ（加納なおみ先生、奥村三菜子先生）	39
おわりに	41
【付録】	43
Introductory Japanese B.....	45
Intermediate Japanese B.....	49
Advanced Japanese B.....	51
ポスター発表資料（大西、平井、松川、山崎、永田）	54
ポスター発表資料（チョ）	55

はじめに

UNSW 海外日本語教育実習の意義と成果

日本語教育コース主任
グローバル教育センター長
森山 新

オーストラリア、ニューサウス・ウェールズ大学 (UNSW) の日本語教育実習は 1998 年度から 2003 年度まで 6 回にわたり実施されていたが、諸般の事情で中断していた。この実習を再開すべく 2011 年度に UNSW と本学との間に大学間学術交流協定が締結、日本語教育実習実施のために 5 名の実習生枠も設けられた。翌 2012 年度、本プログラムは日本学術支援機構のショートビジットプログラムに採択され、その支援のもと、4 名の実習生が派遣され、9 年ぶりに海外日本語教育実習が再開された。しかし、9 年のブランクは大きく、何よりも当時の実習を知っているものが、私を含め本学の側にだれもいなかったため、私の中にいくつもの反省点を残し再開第 1 回目の実習は終わった。

そして 2013 年、通算で第 8 回、再開後第 2 回目の日本語教育実習が行われた。今回は本学がグローバル人材育成推進事業に採択され、海外にて活躍するグローバル人材としての日本語教師養成としての位置づけもなされての開催となった。今年度も日本学生支援機構の支援のもとで 8 月上旬から 9 月下旬までの期間、実施された。参加者は日本語教育を専攻とする大学院生 5 名（博士前期課程 4、博士後期課程 1）が参加した。またこのほかに、同時期に海外短期語学研修で UNSW を訪れていた学部生のうち、将来日本語教育をめざすグローバル文化学環の学部 3 年生 1 名をインターンシップとしてこの実習に加えていただいた。事前研修も新たに加え、日本語教育コースの加納なおみ先生が「日本語教育実習」の授業を通し実際のシラバス作成や教壇実習などについての事前研修を実施した。またグローバル教育センターからは奥村三菜子先生により、様々な手続きに加え、海外での日本語教育経験をふまえた教師としての心構えなどについて予め学ぶ研修を実施した。また、前回実習を経験した院生からのフィードバックなども得られ、体制の整備が進められた。その結果、前年度の反省材料は全面的に解消された。受入大学である UNSW の先生方もその点を多いに評価してくださり、今回の実習は非常に成功裏に修了することができた。

日本語教育を専攻とする学生たちは、単に研究者としてだけではなく、教育者としての顔も有している。さらにグローバル時代において、海外に積極的に出て行き、活動する社会性も必要としている。その意味でこのオーストラリアでの海外日本語教育実習の定着・発展は非常に意義深いものと言わざるをえない。また日本語教育研究は日本語教育の発展に資することが要求され、その意味でも研究と並行して日本語教育実践を伴うことは非常に好ましい形であるということができよう。そう考えると、今回海外日本語教育実習が成功裏に終わり、参加した学生が大きく成長してくれたことは、非常に喜ばしいことである。

本報告書は、6名の参加者が実習を通じどのような学びが与えられ、どのような成長を遂げたかということを見ることができる。この報告書を読んだ多くの学生が彼ら6名に続き、海外におもむき、教育者としてグローバル人材として大きく成長する機会を得ていただければと思う。

最後になったが、本プログラムの成功のためにご尽力いただいた、UNSW の日本語教育のトムソン木下千尋先生、岡本和枝先生、福井なぎさ先生、飯田純子先生、橋本友見子先生、アーマー先生などの諸先生、本学学生の送り出しにご尽力くださった加納なおみ先生をはじめとした日本語教育コースの先生方、奥村三菜子先生をはじめとしたグローバル教育センターの先生方・スタッフの皆様に心から感謝の意を表したい。

2014 年 2 月

【Part 1】

実習の実際

1. 実習の概要

今回の実習は、日本学生支援機構の短期派遣プログラムの支援を受け、「第二言語習得演習」の授業として、2013年8月2日～9月20日の7週間にわたってニューサウスウェールズ大学（The University of New South Wales、以下 UNSW）にて行われた。担当教員は森山新先生、参加者は日本語教育コースの学生：チョナレ（博士後期課程3年）、大西はんな、平井えり、松川彩、山崎香緒里（博士前期課程1年）であった。また、学部のインターンシッププログラムにより、8月19日～9月13日まで永田祥（文教育学部3年生）も実習に加わった。実習期間は大西、平井、山崎、永田が初級クラス、松川が中級クラス、チョナレが上級クラスで実習を行った。

実習の全体の流れは、大きく分けて実習前の事前研修、シドニー到着後の実習、帰国後の事後研修の3つからなる。ここでは、実習全体のスケジュールを表に示す。細かい内容については、次章以降で説明する。次章以降の説明は、実習について、実習前後の研修についての順に行う。

●実習の流れ

日付	内容	その他
4月9日	説明会	
22日	申し込み締め切り	
5月8日	事前研修開始（毎週水曜日16時40分～18時10分）	
7月24日	事前研修終了	担当レベルの決定
29日	出国（大西、平井、松川、山崎）	ETA,海外保険の確認
31日	出国（チョ）	
8月2日	UNSWの先生方との初回ミーティング寮への移動 諸手続き	毎週金曜日の夕方に先生方とミーティングが開かれる
5日	実習開始	
15日	North Sydney Girl's High School 訪問	
24日	シドニー日本語土曜学校 訪問	
26日	マレーファーム小学校 訪問	
9月5日	North Sydney Girl's High School SHORE School 訪問	
17日	国際交流基金 シドニー日本文化センター 訪問	
20日	実習終了	帰国はそれぞれ別日
10月17日	事後研修	
24日	事後研修	

2. UNSW の日本語教育

● 教員

クラス		専任講師	非常勤講師
日本語	Introductory	トムソン先生、福井先生、橋本先生	松井先生、瓦井先生 ※1
	Intermediate	飯田先生	中村先生
	Advanced	岡本先生	大浜先生
	Professional	橋本先生	
その他	Capstone	トムソン先生 岡本先生	※2
	Contemporary Japanese	アーマー先生	
	Representations of Japan	アーマー先生、飯田先生※2	
	Literature	福井先生	

※1...UNSW の大学院生や他大学からの実習生も数名参加し、クラスや Capstone のグループの指導を担当していた。

※2...飯田先生はチュートリアルの中で2回を担当



[UNSW 専任の先生方とお茶大実習生]

左上から、大西、チョ、平井、飯田先生、永田、橋本先生、トムソン先生、
左下から、山崎、松川、岡本先生、福井先生

●日本語の授業について

クラス	Lecture	Tutorial	Seminar	教科書
Introductory	○ (有)	○	○	なかま1
Intermediate	○	○	× (なし)	なかま2
Advanced	○	○	×	上級へのとびら
Professional	○	○	×	特になし

【Lecture】

- ・大講義室で文法事項の説明やドリル練習などを行う
- ・学生は各クラス 50 名以上

【Tutorial, Seminar】

- ・Lecture で説明を受けた項目を文脈の中で使えるようにする、運用練習中心のクラス
- ・学生は各クラス 25 名以下
- ・お茶大実習生は Tutorial を担当した。

● Community of Practice (CoP)

UNSW 日本語コースでは、Introductory（初級前半）のコースに Professional（中級後半）の学生がジュニア先生として参加しサポートしたり、Intermediate（初級後半）のクラスに Professional のクラスの学生が訪問し、日本語でインタビューをしたりするなど、レベル間の交流が活発に行われている。また、Capstone のクラスでは、シドニーの日本人居住者の前で日本に関するリサーチの発表が行われる。さらに、9 月に行われるスピーチコンテストには、UNSW から毎年学生が参加しているが（今年は 3 名）、そこでは、高校生や他大学の日本語学習者とも交流がある。

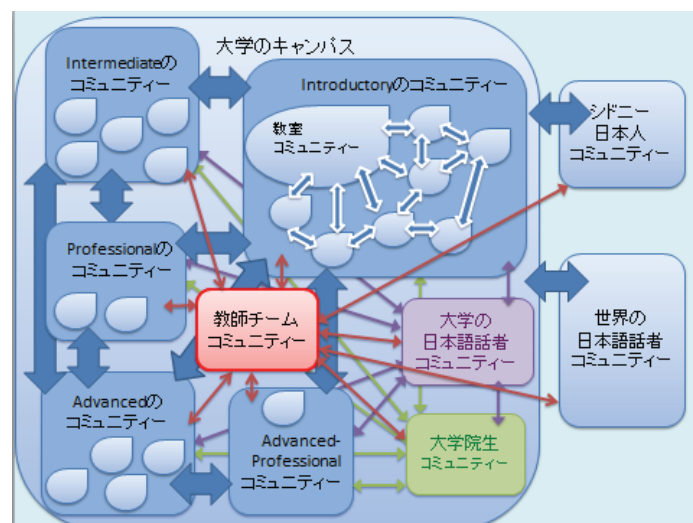


図 1 UNSW Japanese Community of Practice

図1のように、UNSWの日本語コースでは、Community of Practice (CoP)という考え方に基づき、各クラス、各レベルなどをそれぞれ1つの『コミュニティ』と考え、同じレベルのクラス間、異なるレベルの授業間、そしてクラスと学校外の日本語話者コミュニティの関係が、さらに大きなコミュニティを形成していると考えている。それぞれの小コミュニティは個々に独立して存在するのではなく、相互に交流が行われることで共存している。

JFL環境では、学生が生の日本語に触れたり、日本語を話したりする機会が少ないため、そのような機会を増やすには、既存の伝統的な教室や教師、コースの枠を超え、クラスコミュニティ内外での日本語コミュニティとの接触を促進させるような状況を作り出していく必要がある。

このように、レベル間や学内外の壁を超えた様々な日本語コミュニティを築くことで、UNSWの日本語学習者はより多様な日本語に接することになり、また、日本語の実際使用場面を作り出すことができる。さらに、その実際使用や上級の日本語学習者をロールモデルとすることで学習の動機が高まり、自身の考えを明確に表現できるようになり、他者との相互作用の中でどのように自身の能力を高めていけばいいのか、自らの力で理解していく。

●ジュニア先生

ジュニア先生とは、Professional以上の学生がIntroductoryのコースにジュニア先生として参加するProfessionalコースのプロジェクトの一つである。ジュニア先生は事前に担当教師とミーティングを行い、授業中には、学生の質問に答えたりモデル会話を見せたりする。IntroductoryとProfessionalの担当教師がそれぞれジュニア先生の評価を行う。

このプロジェクトの利点は、第一に、Introductoryの学生がジュニア先生に出会い、ロールモデルとして目標を明確にすることができるということである。それだけではなく、自身がProfessionalになったときに自分もジュニア先生としてIntroductoryクラスに出向き、初級の学生のロールモデルにもなるという循環が生まれる。第二に、初級の学習者には、クラスに先生以外の支援者がいることになる。それにより、質問があれば気軽に尋ねることができ、また、先生とジュニア先生の自然な対話を見ることができる。第三に、ジュニア先生は先生とのミーティングや授業中の指示などで、日本語で対話するため、実際使用の場面を作ることができる。実際使用場面の少ないJFL環境では、このような機会は重要となる。第四に、ジュニア先生自身が自分の伸びを確認できる。日本語学習者は中級以上になると、初級の時よりも自分の伸びを実感できず、学習を続けていく動機が高まらないことがある。しかし、初級の学生を見ることで、自分が成長してきたことを実感できる。第五に、「教えることは学ぶこと」(Thomson 1998)¹と言われるように、初級の学生に教えるために自身も勉強をし直さなければならないなど、自律的・持続的な学習のためにも有効であると考えられる。

¹ Thomson, C.K. (1998) "Junior Teacher Internship: Promoting Cooperative Interaction and Learner Autonomy in Foreign Language Classrooms", *Foreign Language Annals*, 31:4: 569 – 583.

●勉強メイト（先輩）

勉強メイトは 2013 年から始まったプロジェクトである。勉強メイトは、普段「先輩」と呼ばれている。中・上級の学習者 (Advanced-Professional, Professional, Advanced) が原則二つ下のレベルの講義に参加するプロジェクトで、参加者は自身が所属するクラスの成績に加算ポイントをもらうことができる。

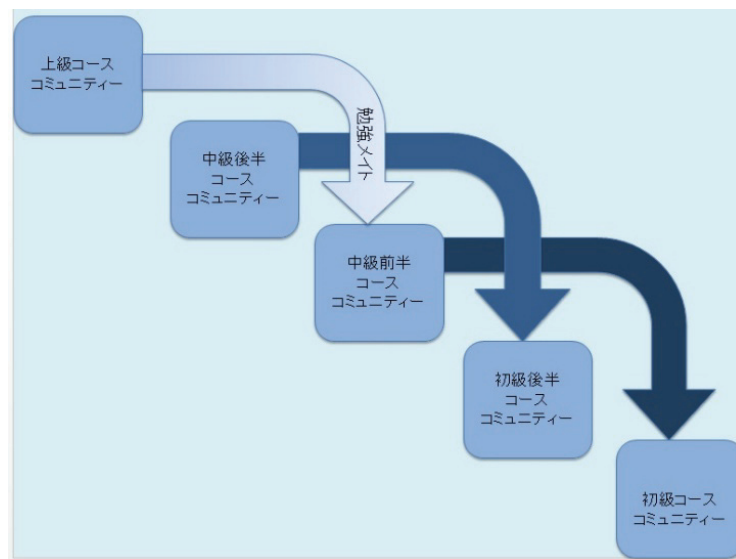


図 2 勉強メイトのしくみ

ジュニア先生とは異なり事前のミーティングなどは特に行われない。主に、Lecture の練習の支援などを行うのが仕事である。ジュニア先生は成績の良い学生が主な対象となるが、勉強メイトは特に制限がなく、改めて下のコースの学習項目を学び直したい学生が誰でも参加できるため、ジュニア先生プロジェクトの利点をより多くの学生が受けることができる。

● Black Board／Moodle

学習用に作られた UNSW の SNS である。授業ごとに Moodle ページや Black Board のページが用意されており、課題提出、授業に関する情報揭示、Lecture に出られなかった学生のための Lecture の内容紹介、プロジェクトについてのディスカッション、次回の授業のための Reading や課題などの提示、先生への質問等に使用されている。UNSW の公式ホームページ内にある“my UNSW”からログインして入ることができる。Moodle はオンライン上、授業時間外におけるコミュニティの結びつきにも役立っていると考えられる。

3. 実習の内容

実習内容（全体）

ここでは、実習を概観する。実習の大まかなイメージを掴み、各項目について詳細に説明したページへ案内することを目的とする。

★時間割（Introductory）

Introductory（大西、永田、平井、山崎）					
	月	火	水	木	金
9:00					
10:00		Tutorial （松井先生）	Tutorial （福井先生）		
11:00		Tutorial （松井先生）	Tutorial （福井先生）		
12:00					
13:00					
14:00					
15:00	Lecture （トムソン先生）				
16:00					
17:00					
18:00					

★時間割（Intermediate）

Intermediate（松川）					
	月	火	水	木	金
9:00					
10:00		Tutorial		Tutorial	
11:00		（飯田先生）	Tutorial	（中村先生）	
12:00			（飯田先生）		
13:00		Tutorial			
14:00	Lecture	（中村先生）			
15:00	（飯田先生）				
16:00					

★時間割 (Advanced)

Advanced（チョナレ）					
	月	火	水	木	金
9:00					
10:00				Tutorial （大浜先生）	
11:00			Tutorial （岡本先生）		
12:00					
13:00					
14:00	Lecture		Tutorial		
15:00	（岡本先生）		（岡本先生）		
16:00					
17:00					
18:00					

★本実習は大きく 5 つの活動から構成されていた。

- 教壇実習
- 金曜日のミーティングに参加
- 教壇実習をするレベルの他クラスに参加
- 他レベルの日本語クラスに参加
- UNSW の日本語クラス以外の講義に参加

詳細は、各項目にページ数を示したので、そちらを参照願いたい。

- [一人じゃない!] **教壇実習** [学生は優しい!]

3 つのレベルに分かれて実施した。→ 詳細はIntroductory (初級) p. 12 へ。
Intermediate (中級) p. 14 へ。
Advanced (上級) p. 16 へ。

- [怖くないよ!] **金曜日のミーティングに参加** [質問しないのは悪いこと!]

毎週金曜日に UNSW の先生方と実習生が集まりミーティングを行った。→詳細は p. 23 へ。

- [学生の新たな魅力!] **教壇実習をするレベルの他クラスに参加** [先生の技 CHECK!]

Lecture、Tutorial、Seminar (Introductory のみ)

- [学生の成長過程] **他レベルの日本語クラスに参加** [難しいテーマに気を抜けない]

Introductory、Intermediate、Advanced クラスの他に Professional や Capstone というコースなどもある。

- [そんな切り口で見るのか！] **UNSW の日本語クラス以外の講義に参加** [All English:]]

UNSW には日本の文化に関して英語で行われる授業がある。実習生は、Contemporary Japan と Representations of Japan の講義を UNSW の学生と一緒に受け、グループディスカッションに参加することができる。

Introductory Japanese B

- 担当教官：福井先生、トムソン先生
- 実習生：大西はんな、永田祥、平井えり、山崎香緒里
- 使用教材：『Nakama Book1 b』（教科書、ワークブック、コースノート）
- 担当コースについて
 - ・1 年生を中心とした日本語初前半コース
 - ・前学期に開講されていた Introductory Japanese A の続きとなる。
 - ・学生は 1 週間の間に、講義 2 時間、チュートリアル 1 時間、セミナー 2 時間の計 5 時間の授業を受ける。講義で新しい内容が導入された後、チュートリアルやセミナーにて復習やアクティビティ、ロールプレイングなどを行う。
 - ・Introductory に携わる先生方は月曜のトムソン先生の講義に午前か午後のどちらかには必ず参加する。
 - ・講義の資料は毎週 Moodle にアップされ、学生が予習できるようになっており、講義の際にプリントアウト又は PC などを持ち込み手元に置いて講義を受ける。
- 実習について
 - ・教壇実習：毎週水曜の Tutorial 6 と 7
 - ・授業参加：毎週月曜の午後の講義には必ず参加した。その他のチュートリアルやセミナーは 4 人で分担して参加し、授業後に情報交換を行った。
 - ・出席アンケートの集計：月曜の講義では毎回学生が指定の文法項目を使って文を書く。それを回収して出席を確認する。午前、午後、それぞれの出席人数とその合計、面白い解答、誤用などを Excel の表にまとめる。
 - ・ロールプレイングで使用する教材作り
 - ・実習生は各自で翌週に参加する授業を決定し、該当週の前の週の金曜日までに、担当の先生に翌週どの授業に参加するかをメールで連絡し、各クラス担当の先生方にも実習生が授業に参加することを事前にお伝えした。連絡は今回は Introductory の実習生が複数いたのでまとめて行った。メールの内容については、他の実習生とも確認し、一人が送る場合も連名で提出する。ただし、非常勤先生方には事前のより早い段階で、メールなどで見学の許可をいただけるか連絡を取った。

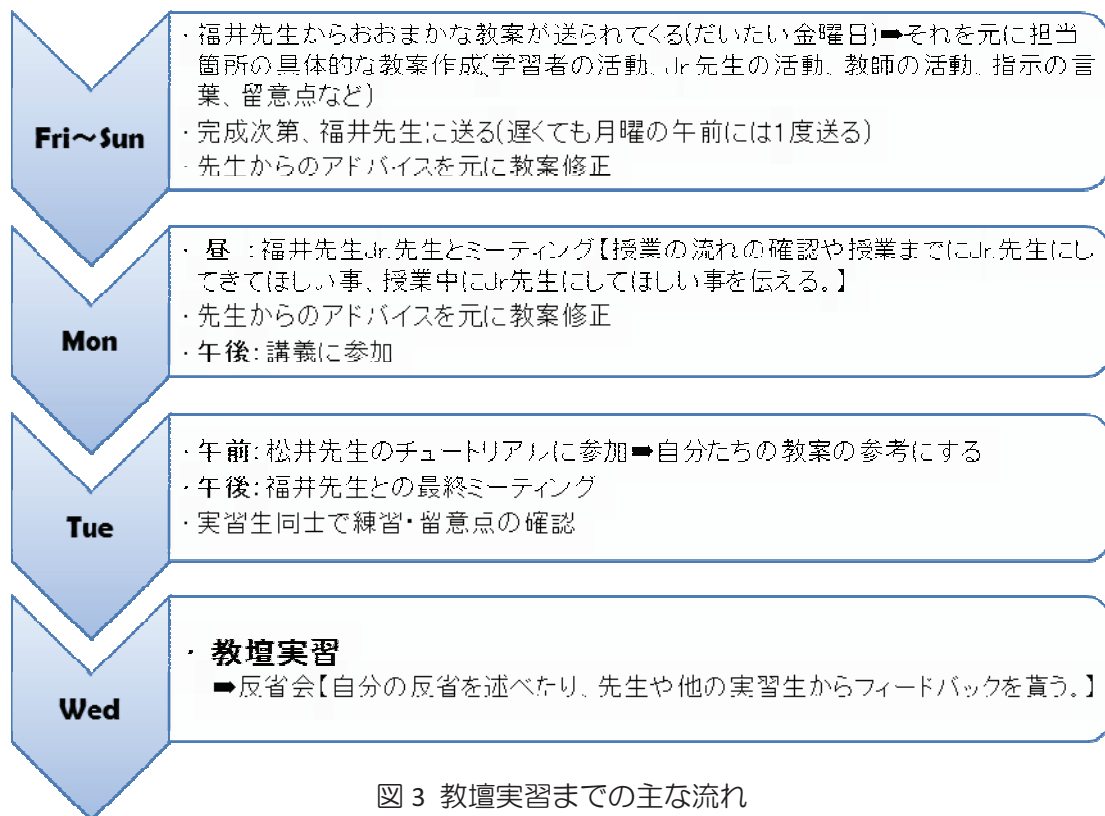


図3 教壇実習までの主な流れ

●教壇実習の内容

	主なテーマ	実習生が行った内容	
Week2	自己紹介	0分	参加のみ
Week3	助詞・一番～	14分	ペアワーク2つ[助詞は・が・も、「～の中で一番～」]
Week4	大きい数字	40分	大きい数字、ペアワーク[スーパーの広告] (教案あり⇒p. 45)
Week5	数詞・人の描写 (服・アクセサリ)	60分	宿題確認、数詞、ペアワーク[数詞の練習]、服とアクセサリ[単語の練習、ペアワーク(他の人を描写する)]、漢字とディクテーション
Week6	レストラン・食べ物	60分	宿題確認、単語の練習、ゲーム[リストにあります]、漢字とディクテーション
Week7	家族	60分	宿題確認、宿題テスト、家族の単語[覚える⇒クイズ]、家族のインタビュー
Week8		60分	宿題確認、家族のリスニング、家族のリーディング(読んで、家系図を書く)、家族のスピーキング(他の人に紹介する)

- ・今回の実習生が担当させていただいたチュートリアルクラスには、学習者が 15～20 人程と福井先生と私たち実習生の他に、他大学からの実習生、UNSW の実習生、Jr 先生がいた。
- ・チュートリアルクラスでは漢字先生という制度があり、漢字学習の際に漢字圏の学生が漢字先生となり、非漢字圏の学生に漢字の書き方や意味について教えるというものである。クラスによるが大抵 1 人の漢字先生が 2～3 人の学生を見る。

Intermediate Japanese B

●担当教官：飯田先生

●実習生：松川彩

●使用教材：ななかま 2

●担当コースについて

- ・2 年生を中心とした日本語初級後半クラス
- ・コースの目標：自分の身の回りのことを日本語で表現できる
- ・クラスについて：Lecture1 回、Tutorial（4 クラス）
⇒クラスによって特色があり、最初の印象と数週間たってからの印象はまったく違った。学生をよく観察し、学生の反応に合わせていくことが大切だと感じた。また、学生の様子については先生に情報を聞くことも役立つ。

●Project について

Project は 1 学期間を通して行われる Intermediate Japanese B の Project は、学生が自分の経験に基づき、意見を述べる Public Speech である。スピーチは、自分の経験に基づいて意見（経験から得られる教訓のようなもの）を言うというものである。学生たちは、はじめの 2～3 週でトピックを決める。今回主に選ばれたトピックは、結婚、教育、留学、アイドル、写真を撮ること、環境、スポーツ、ダイエットなど様々であった。

Project は、いくつかの段階に分かれている。第 1～3 週でトピックを決め、第 4～7 週にはドラフトを書いて Moodle に投稿しピアレビューを行う。ドラフトへのコメントは実習生も行った。第 8 週には、スピーチで話す内容について 1 分間プレゼンを行い、それをグループディスカッションする Interaction test が行われる。第 9 週には、クラス交流でクラスに来る先輩にスピーチの delivery をチェックしてもらう。さらに第 9 週～第 11 週には、家で delivery の練習を行い、それを撮影したビデオを Moodle に投稿する課題が課される。ビデオもピアレビューが行われる。最終的なスピーチは第 12 週に行われる。各段階がすべて評価の対象となる。

●実習について（実習生の役割）

【Lecture】

- ・前半 1 時間は先生が 70%ほど英語で講義を行うため、実習生は座って講義を聞きながらメモを取った。
- ・途中、「日本ではどうですか」「お茶大ではどうですか」などの質問をされ、答えること

もあった。

- ・後半は、勉強メイト（先輩）と一緒に Activity のプリントを配布したり、Activity 中に学生の質問に答えたりした。

【Tutorial】

- ・第2週から実習に入った。
- ・今回の実習生は、第3週には30分ほどの部分を担当させていただいた。
- ・第4週からは90分の授業を担当させていただいた。
- ・教案は、前の週に次の週の教案について考え、先生にご相談し、アドバイスをいただき、修正した。具体的な実習内容は次の通りである。

●各週の実習内容と実習生の役割

週	なかま	内容	実習生の役割 (Tutorial)
2	4	★～てれる／もらう、～てくる／～ていく、～ましょうか ★スピーチのトピック	自己紹介、授業や学生の様子を観察、近くにいる学生の質問に答える
3	9	★文化と習慣について ★～てあげる／てくれる／てもらう、～vところ、～たばかり ★スピーチについて	授業や学生の様子を観察、授業への参加、学生からの質問に答える、先生の教案で「vところ／～たばかり」の運用について30分ほど授業を行う
4		★「～てあげる／くれる／もらう」の宿題の答え合わせ ★使役、間／間に	飯田先生の2つのクラスで120分の授業を担当
5	10	★近所迷惑 ★受身、使役受身	//
6		★近所迷惑、文句を言う ★～ようにする、～まま、～ても、～のに	//
7	11	★就職活動 ★Interaction Test	Interaction Test の司会、準備
8		★就職、面接、履歴書 ★敬語（尊敬語、謙譲語、丁寧語）	飯田先生の2つのクラスで120分の授業を担当（教案あり⇒p. 49）

●一週間の流れ

曜日	予定	振り返り	授業準備
月	Lecture		教案を頭に入れる、シュミレーション、（次週について考え始める）
火	Tutorial①	Tutorial①の反省	（次週についての相談） ※1
水	Tutorial②	Tutorial②の反省	（次週についての相談） ※1
木			次週の教案作成開始
金	全体 Meeting	1週間の振り返り、次週の目標	次週の教案作成
土			教案をメールで提出（フィードバックをもらう）
日			教案のやりとり

※1...先生や実習生自身の都合により、次週の相談は火曜か水曜の午後に行った。教案作成は、自分が0から考えるのではなく、先生が去年使われた教案を見せていただき、それに自分なりの色を少し加えた。教案は相談の際に見せていただいたが、その前に、ある程度自分で何をしたいか考えていくことは必要である。先生はいつも「松川さんはどんなことをしたいですか」と聞いてくださるので、ご意見をいただきながら、ディスカッションをすすめ、自分なりの教案を作成した。

Advanced Japanese B

●担当教官: 岡本先生

●実習生: チョナレ

●使用教材: 主教材『上級へのとびら』、副教材『上級へのとびらーきたえよう漢字力: 上級へつなげる基礎漢字 800』『上級へのとびらーこれで身につく文法力』

●実習について

【Lecture (120 分)】

・80 名ほどを対象とする講義式授業。主教材の読解文と関連したテーマのプレゼンテーションを通して読解前の予備知識を学ぶ。また、関連文型や新出漢字を導入し、簡単な練習問題を解く。その他に、文型の復習として学生の発表、漢字の復習としてグループを作り毎週担当の学生（漢字先生と呼ばれる）が作成したワークシートに取り組む時間がある。

【Tutorial (12 分)】

・25 名ほどを対象とし、読解及び文型・話題の応用活動を中心とする授業。

●その他、評価に関わる活動

・プロジェクト: 「ドラマおたく」「本の虫」「日本語能力試験」「日本語メンター」「カラオケ」などから一つを選び、自分の日本語能力向上のために 1 学期にかけて取り組む課題。学期末にレポートを提出する。

・Dictation Test: Week7 と Week12 の 2 回実施。

・Interaction Test: Week9 と Week13 の 2 回実施。事前に決められたテーマに基づき、ペアでロールプレイを行う。Week9 に行われたテストでは「昔ホームステイでお世話になった日本人のホストファミリーがオーストラリアに引っ越してきたので、その家を訪問する」というテーマが設定され、言語・非言語行動が評価対象であった。

●授業及び実習内容

Week	Date	Lecture Content 講義内容	Tutorial content チュート内容	実習生の取り組み (実習を行ったのは Tutorialのみ)
2	5 Aug	<p><第6課日本人と宗教></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Dictationの練習 ・ 日本の宗教について ・ 既出文型の復習 (学生のプレゼンテーション) <p>--休憩--</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文型の導入・練習 (らしい・なかなか・結構など) ・ 関連漢字の導入 (読み書き: 国民・急ぐ・参加・世紀・倍、読み: 怒る・殺す・失恋など) ・ 漢字の復習 (漢字先生) 	<ul style="list-style-type: none"> -Getting to know each other -読解練習「日本人の生活と宗教」 	<ul style="list-style-type: none"> -学生の前で自己紹介 -アクティビティの手助け
3	12 Aug	<p><第6課日本人と宗教></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Dictationの練習 ・ 日本の迷信について ・ 既出文型の復習 <p>--休憩--</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文型の導入・練習 ・ 関連漢字の導入 ・ 漢字の復習 ・ カラオケ発表 	<ul style="list-style-type: none"> -文法ワークブック -宗教的行事や習慣について話し合うグループ活動 -会話文「1.友達同士の日本人の信仰に関する会話」、「2.先生と学生の日本の宗教に関する会話」の読解と練習 	<ul style="list-style-type: none"> -アクティビティの手助け -会話文2の説明
4	19 Aug	<p><第7課日本のポップカルチャー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Dictationの練習 ・ 日本のアニメについて ・ 既出文型の復習 <p>--休憩--</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文型の導入・練習 ・ 関連漢字の導入 ・ 漢字の復習 ・ カラオケ発表 	<ul style="list-style-type: none"> -文法ワークブック -読解練習「マンガの神様: 手塚治虫」 -日本のポップカルチャーについて話し合うグループ活動 	<ul style="list-style-type: none"> -グループ活動の企画・実施 (20分程度)

Week	Date	Lecture Content 講義内容	Tutorial content チュート内容	実習生の取り組み (実習を行ったのは Tutorialのみ)
5	26 Aug	<p><第7課日本のポップカルチャー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Dictationの練習 ・ オノマトペについて ・ 既出文型の復習 --休憩-- ・ 関連文型の導入・練習 ・ 関連漢字の導入 ・ 漢字の復習 ・ カラオケ発表 <p>(教案あり⇒p. 51)</p>	<ul style="list-style-type: none"> -文法ワークブック -会話文「1. 困った状況を説明する」「2. 血液型占いについての友達同士の会話」の読解と練習 -会話文と関連した内容で、ペアで会話練習 	<ul style="list-style-type: none"> -会話文の説明 -会話文と関連した内容のアクティビティを企画・実施
6	1 Sep	<p><第7課日本のポップカルチャー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Dictationの練習 ・ オノマトペについて ・ 既出文型の復習 --休憩-- ・ 関連文型の導入・練習 ・ 関連漢字の導入 ・ 漢字の復習 ・ カラオケ発表 	<ul style="list-style-type: none"> -文法ワークブック -オノマトペ練習 -会話文「1,2. ほめる・ほめられる」の読解と練習 	<ul style="list-style-type: none"> -文法ワークブックを使った文法の練習活動の実施 -オノマトペの練習活動（自作pptと教科書の練習問題、オノマトペに関する4コマ漫画を利用して）
7	9 Sep	<p><第9課日本の教育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Dictationの練習 ・ 訪問の際のマナーについて（Interaction Testの説明） ・ 既出文型の復習 --休憩-- ・ 関連文型の導入・練習 ・ 関連漢字の導入 ・ 漢字の復習 ・ カラオケ発表 	<ul style="list-style-type: none"> -Dictation Test -Interaction Testの説明 -会話文「3,4. ほめる・ほめられる」の読解と練習 -読解練習「日本の教育の現状」前半 	<ul style="list-style-type: none"> -Dictation Testの採点 -Interaction Testの模擬練習の実施 -会話文の説明 -会話文と関連した内容のアクティビティ（ロールプレイタスク）を企画・実施 -読解練習活動の企画・実施
8	16 Sep	<p><第9課日本の教育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Dictationの練習 ・ 日本の教育について ・ 既出文型の復習 --休憩-- ・ 関連文型の導入・練習 ・ 関連漢字の導入 ・ 漢字の復習 ・ カラオケ発表 	<ul style="list-style-type: none"> - Interaction TestについてQ&A、練習、重要事項チェック -読解練習「日本の教育の現状」後半 -教育について話すグループ活動 	<ul style="list-style-type: none"> -Interaction Testの模擬練習の実施 -読解練習活動の企画・実施 -教育について話すグループ活動の企画・実施

4. 実習前後の活動

4.1. 事前研修

教育実習に参加するにあたり、事前研修をグローバル人材育成推進センター（グローバル教育センター）の奥村先生のもとで行った。

- ・ 期間：5月8日～7月24日
- ・ 回数：週1回（全12回）

事前研修では、自分が過去に受けた言語の授業を振り返ったり、初級教科書に出てくる文法の実際の使用場面について考えたり、実際に UNSW で授業をすることを想定してアクティビティや教案を考えたりした。また、同時に、実習の手続きに関する指導(書類等)もしていただいた。

事前研修に参加するにあたり、毎回配布されるワークシートを予め記入して臨む。研修では、そのワークシートを元に互いに意見を出し合ったりしてディスカッションをしていく事が多かった。また、事前研修 2 回毎に振り返りシートが配布され、事前研修を経て、わかった事・気付いた事、わからなかった事・疑問、そして、自分の目標を記入した。

最後の回では前年度の実習生の皆さんを招き、UNSW や、実習、現地での生活についての情報を共有した。

事前研修の具体的な内容・スケジュールは以下のとおりである。

●2013 年度 UNSW 日本語教育実習事前研修スケジュール・実施記録

回 (日付)	テーマ	目的	活動資料	その他
1 (5/8)	「ことばの授業」を振り返る	言語の授業を客観的に振り返ること。	ワークシート 1	JASSO 奨学金について
2 (5/15)	「協働」について考える	「協働」の意義と可能性と限界について振り返ること。	ワークシート 2	UNSW への完了手続きについて
3 (5/22)	日本語とどこで出会っていますか？	自分自身や学習者の日本語接触の実際を振り返ること。	ワークシート 3 初級教科書 接触場面調査結果	航空券購入について VISA について
4 (5/29)	日本語教科書の中の日本語接触場面	教科書の登場人物の日本語接触場面という視点から教科書分析を行うと同時に、それを学習者の実際の日本語接触と照らし合わせながら考察すること。	ワークシート 4	宿舎部屋割り等に関して

5 (6/5)	初級クラスに登場するいろいろな文型	初級文型が使用される実際の場面・状況を自分の経験や身の回りの事象などから意識的かつ客観的に観察すること。	ワークシート 5	
6 (6/12)	アクティビティを考える	アクティビティを包括的に（目的からゴールまで）プランニングすること。ペアで活動案作成。	ワークシート 6 の A3 版	渡航日程の提出と保険の確認
7 (6/19)				
8 (6/26)	アクティビティを振り返る	他ペアのアクティビティ評価を通して、自ペアのアクティビティ内省を行うこと。	ワークシート 7	課題図書を読了具合を確認
9 (7/3)	初級授業を考える：『なかま 1b』第 10 課	同じ教材・課の教案について、自分の教案と他人の教案を比較検討すること。	教案フォーマット例 教案例	実習担当希望クラス決定
10 (7/10)				実習担当クラスの先生に連絡・相談
11 (7/17)	UNSW を知る 【Q&A セッション】	UNSW に関する各種情報の共有と昨年の実習参加者との Q&A	2012 年度報告書	
12 (7/24)				

4.2. 日本語教育学実習

実習に参加する大学院生は、実習経験の有無等に関係なく、「日本語教育学実習」の履修が必須であった。この情報は、科目名を含め今年度のものであり、来年度以降変更される可能性もある。

★内容

半期15回という時間的制約がある中、初学者でもコース終盤には教案を書き、模擬実習を行う。講義の構成は大きく3つであった。

①座学（教授法と授業設計と教案）

②模擬実習（教材分析、日本文化紹介（と授業案）1回、実習ビデオ視聴、実習2回）

③海外日本語教育事情（ゲストスピーカー）

特に実習と関係の深い①、②の詳細は以下の通りである。

①座学

教授法とそれぞれの特徴について知る。

教案は何に留意して書けばいいかを知る。

②模擬実習 教材分析

教科書を語彙、文型、課の構成と本文・練習問題等の観点から分析する（模擬実習で使用する教科書を分析するのが経済的である）。

日本文化紹介の授業案

1人1つずつ紹介する日本文化を選び、文化紹介を含む1回分の授業計画を立てる。実演する部分は、日本文化紹介についてのみである（1人で前に立ち、授業のようなものをするのは、日本語教育学実習においてはこの紹介が最初であった）。

実習ビデオ（市販品）視聴

ポイント（現場特有の方法、ほかの現場に応用可能なものは何か、教え方の特徴、疑問、学習者の視点でどう感じるか等）に着目して視聴する。

模擬実習2回

先生との事前カンファレンスで指導を受ける。2,3人のグループで10分程度の模擬実習を行う。学習者役は、残りの受講生が担う。受講生も模擬実習評価表を記入し、良い点や改善を要する点、質問や疑問点についてコメントする。模擬実習の様子はTAの方がビデオ撮影し、メールで送ってくださる。

★どう役に立ったか、どう位置づけたか

- 教案を書き、カンファレンスを受ける中で、日本語コースの全体を意識できるようになる。
- 教案・教具の作成にどのくらい時間がかかるか分かるようになる。
- 一緒に実習に参加する学生の強み等を知ることができ、実習中も連携しやすくなる。
- 実習での課題を発見することができる。

★模擬実習と海外教育実習の相違点

模擬実習は.....

- 学習者が受講生（日本語母語話者と日本語超級レベル）
- JFL環境でない
- クラスの規模が異なる（模擬実習では10人程度のクラス）
- 実習時間が短い
- 2, 3人で1授業を行う

4.3. 事後研修

事後研修は帰国後 10 月 17 日と 24 日の 2 回、グローバル教育センターの奥村先生の指導のもと行われた。内容は、今回の日本語教育実習に参加して「新しく知ったこと、わかったこと、気づいたこと」と「逆に疑問が深まったこと、わからなくなったこと」をワークシートに記入し、それについて意見交換をし、今回の実習を振り返り学びを深めるものであった。さらに、12 月に「言語文化と日本語教育研究会」において今回の実習について発表することが決まっていたため、発表の内容や分析方法についての話し合いも行われた。（ポスターは p. 54, 55）

5. 実習以外の活動

5.1. 金曜 Meeting

実習中毎週金曜日の授業後に、UNSW の日本語教育コースの先生方と実習生全員でミーティングが開かれた。このミーティングでは、一週間を振り返って自分の反省や気付き、前週に決めた自分の目標の達成度、次週の目標などを報告した。またそれについて先生方からアドバイスやご意見をいただいた。その他、先生方のご提案で、自分の授業の価値、「なりたい自分」などについても話し合いの機会を持った。先生方や他の実習生と意見を共有することで、教師になるとはどういうことなのか、これからどうしていきたいのかなど、多くの学びを得た。

5.2. 訪問先

実習期間中、UNSW 以外の様々な機関に訪問することができた。訪問を通して、大学の日本語教育とは違う年少者に対する第二言語教育やバイリンガル教育の現場を見ることができ、大変有意義であった。訪問したのは①North Sydney Girl's High School、②シドニー日本語土曜学校、③マレーファーム 小学校、④SHORE School、⑤国際交流基金の 5 か所である。

①North Sydney Girl's High School

- 7～12 年生が通う公立学校。言語科目は Heritage コースか第 2 外国語コースで学ぶことができ、French, German, Japanese, Latin, Mandarinの中から選択できる。
- 訪問日：8 月 15 日（木）、9 月 5 日（木）の 2 回
- 私たちが見学したクラスは高校 3 年生（12 年生）の日本語クラス（第 2 外国語コース）で、学生は 10 名ほどだった。この学校自体アジア系の学生が多いようで、見学クラスの学生も中国・韓国などアジア系の学生が多かった。1 回目は「どうして日本語の勉強を始めたか、日本語の勉強で自分が難しいと思うことは何か」、2 回目は「インターネット、スマートフォンなど IT について」という大まかなテーマでゲストセッションを行った。ほとんどの学生がドラマや音楽など趣味で日本語の勉強を始め、7 年生の時から勉強を続けているそうである。また、1 回目の見学の時は、学生が書いた作文を採点する機会をいただき、採点基準などについてお話を伺うこともできた。
- コンタクト：トムソン先生の紹介で、溝尻サリー先生とコンタクト
- <http://web2.northsydgi-h.schools.nsw.edu.au/public/index.html>

②シドニー日本語土曜学校（於 Cammeray Public School）

- 幼稚園(年長組)から中学 3 年生までを対象に日本語の補習授業を行う土曜学校。家族に日本人がいるなど日本にルーツを持つ生徒が多い。授業は文部科学省指定の国語の教科書やその他の教材を用いて行われる。
- 訪問日：8 月 24 日（土）
- 当日は中学部のスピーチコンテストがあり、その見学の後、二つのグループに分かれてそ

それぞれ小学1年生と中学2年生、小学2年生と5年生のクラスを見学した。授業は低学年のクラスでもほとんど日本語で行われ、生徒たち同士で話すときにも日本語を使うことが多かった。また、授業中に「このことばは日本語ではわかるが英語ではわからない(または、その逆)」のような発言が見られ、小さい頃から二つの言語・文化の存在を自然に受け入れている様子が印象的だった。しかし、生徒の家庭環境(家庭内言語や文化など)や英語力・日本語力が異なるため対応が難しい点があるということを担当の先生から伺った。

- コンタクト：トムソン先生の紹介で中村先生（UNSW 日本語コースの非常勤講師）とコンタクト

- <http://www.sssjapanese.webs.com/>

③マレーファーム 小学校 (Murray Farm Public School)

- 2010 年度から日本語バイリンガル教育プログラムを実施している公立小学校。日本語の授業は週二回くらいの割合で日本語のネイティブスピーカーにより行われる。

- 訪問日：8月26日（月）

- 二つのグループに分かれてそれぞれ1年生と4年生、幼稚園と5年生のクラスを見学した。授業は担任の先生とチームティーチングの形で行われていた。歌などを通して挨拶や文字の読み書きを学んでおり、楽しく自然と違う言語や文化に触れている様子が見られた。

- コンタクト：トムソン先生の紹介で、竹井真弓先生とコンタクト

- <http://www.murrayfarm-p.schools.nsw.edu.au/>

④SHORE School (Sydney Church of England Grammar School)

- ノースシドニーにある私立男子学校。日本語の授業は8年生から12年生まで第2外国語として学べる。

- 訪問日：9月5日（木）

- 9年生のクラスを見学。その日の授業では、助数詞「～匹」の復習をした後、グループを作って順番に3つのアクティビティ（カルタ・書道・インタビュー）を行った。実習生は各グループに入ってアクティビティの手助けをした。漢字の書き順や日本語で話すことを難しがりながらも一所懸命取り組む姿がかわいらしく、楽しい時間を過ごすことができた。

- コンタクト：North Sydney Girl's High School のサリー先生の紹介で、Trish E. Gibson 先生とコンタクト

- <http://www.shore.nsw.edu.au/>

⑤国際交流基金 シドニー日本文化センター

- 国際交流基金のシドニーセンター。展示会 (Japanese Film Festival) などの開催を通じた文化交流、教師教育、日本語教育、図書館の運営などを行っている。

- 訪問日：9月17日（火）
- 日本語専門員の金さんと大知さんのお話を伺い、図書館を見学した。
- コンタクト：トムソン先生の紹介で金孝卿さん（お茶大出身の先輩）とコンタクト
- <http://www.jpf.org.au/>

＊訪問の際の留意点

- ・できるだけ早い段階で訪問したい機関、皆が共通して空いている時間（もしくは空けられる時間）を決めておくこと。
- ・訪問につき学内の活動に参加できない場合は事前連絡を怠らずに行うこと。
- ・お土産を準備しておくといい。

5.3. NSA

同時期に UNSW へ短期留学に来ているお茶大の学部生のプログラムとして、「日本語教育とはどのようなものか体験する」という目的のもと、UNSW の日本サークルである NSA (Nippon Students Association) の学生との交流を行った。

お茶大生がシドニーに来たことを歓迎し、食事・歓談した Welcome dinner 等含め、UNSW 生 (NSA メンバーでない学生もいた) が毎回約 30 名、お茶大の学部生が 16 名参加した。当初大学院生の参加予定はなかったが、workshop で進行役を務めた学部生が日本語教育実習にも参加しており、大学院生と NSA に関する情報共有の場を持っていたことなどから、全体の補佐役のような役割で途中から参加した。

以下は交流プログラム日程である。なお、sightseeing tour は雨天のため中止となった。

日時	内容
8/5 (月)	Welcome dinner @ kokoroya (主催 NSA)
8/8 (木)	City sightseeing tour (NSA、雨天により中止)
8/12 (月)	Introductory session (NSA)
8/15 (木)	Workshop1: 「自分」の捉え方、かるた (お茶大)
8/19 (月)	Workshop2: ゆるキャラ (お茶大)
8/22 (木)	Workshop3: 折り紙 (お茶大)
8/26 (月)	Workshop4: 祭り (お茶大)
8/29 (木)	Workshop5: J-POP (お茶大)
9/2 (月)	Workshop6: 茶道 (お茶大)
9/5 (木)	Workshop7: 顔文字 (お茶大)
9/9 (月)	Workshop8: キャラ弁 (お茶大)
9/16 (月)	Farewell party @ UNSW white house (NSA 主催)

Session、workshop は UNSW Global LG12 教室で、18:00～19:30 に開催した。

Introductory session では、NSA メンバー主催でゲームを行った。

Workshop 中は、日本語教育実習に参加したお茶大の学部生 1 人を司会役に立て、基本的に 1 回につきひとつのテーマに対して 2 人で ppt を作成、発表した。その際、クイズやディスカッションを盛り込むことで交流の促進を図った。発表は英語もしくは日本語で行い、日本語の場合は UNSW 生から通訳を募った。なお、Workshop2 からは学部生の英語インターンシップが始まりお茶大生の 18:00 集合が厳しくなったため、18:00~18:30 までは「花いちもんめ」や「じゃんけん列車」など、日本の遊びを行った。

5.4. 院生勉強会

トムソン先生のゼミ生（大学院生）が週に一回（今回は毎週木曜日 16:00~18:00）自主的に行う勉強会。ゼミと似たような形で、各自の研究について報告したり、理論や研究法に関する勉強会を開いたりする。実習期間中は「The L2 Motivational Self System（毛利さん）」「Community of Practice・正当的周辺参加など本勉強会と関連する理論の紹介（島崎さん）」「SCAT について（森山先生）」などのテーマで行われ、興味がある場合は実習生も参加することができた。

【Part 2】

- ・ 手続きと生活
- ・ フィードバック

☺手続き

シドニー到着後の手続きとして大きく 2 つのものがある。まず UNSW で留学生の受け入れ手続きが必要である（研修プログラム Practicum Exchange）。その後、大学内のインターネットやパソコンが使えるパスワードを取得する手続きを行う。2 つの手続きについて以下で説明する。

研修プログラム (Practicum Exchange)

8 月 2 日、先生方との初回ミーティングの前に、UNSW Global Education Office で短期留学生係が説明会を行い、研修プログラム (Practicum Exchange) への登録手続きと大学での生活について詳しく説明してくれた。研修プログラムへの登録手続きは以下の通りである。

- (1) 研修生は説明会の際、ID 番号の入っているアクセプタンスレターを各自もらう
- (2) 大学の会計課で参加費（330 ドル）を支払い、領収書もらう
- (3) (1)のアクセプタンスレターと(2)の領収書を持ち、学生課で研修プログラムへ参加を登録
- (4) (3)の登録の 24 時間後、学生証をもらう。パスポートとアクセプタンスレターが必要
- (5) (2)の領収書を UNSW Global Education Office に返却する

インターネットパスワード

研修プログラムの手続きが終わり、学生証を受け取った後、大学内のインターネットやパソコンを使うためのパスワードを取得する。学内のパソコンやネット環境の窓口（アシスタントカウンター）へ学生証を持っていき、設定してほしいパスワード（数字、大文字小文字が入ったもの）をアシスタントに伝え、設定してもらう。このパスワードで大学内の無線 LAN、パソコンの利用や、学内サイトへのアクセスができる。

また、担当レベルによっては、授業で先生と学生が情報を共有できるネットサービス（ホームページ）が使用されている。このページには先生が授業の教材をアップロードしたり、学生が宿題を提出したり、イベントや授業についてのコメントを投稿したりする。今回は Moodle を紹介していただき、それぞれの授業を担当する実習生はその授業のページに追加された。追加手続きは各授業の教師により行われるが、時間がかかるため、初日に確認しておいた方がよい。

それぞれの手続きについては、到着後の説明会で詳しい話があるが、問題や質問がある場合は、Global Education Office に尋ねるとよい。

実習生控室

大学で、実習生が使用できる部屋を一部貸していただいた。この部屋は UNSW の研究員や院生が使う部屋で、パソコンが置いてあり、印刷もできるようになっている。印刷やコピーは印刷室でできるが、印刷の設定が必要である。設定の仕方は同じ階にある受付の事務員の方に教えていただいた。また、印刷室は平日の 9～17 時に利用可能で、土日は使用できない。部屋の利用が必要であれば、先生方に相談し、貸していただく手続きをする。

(/・ω・)/

お金編

- ・事前に両替していった現金は 10～15 万円分、実際使ったのは（クレジット込）15 万円くらいです。
- ・先生方への手土産として、羊羹を 1 箱買って持って行きました！あと 1 人 2 個ずつ、煎餅等できるだけ賞味期限が長いものを持って行って、訪問先用に。
- ・おすすめのホテル...Sydney Harbor YHA hostel 景色がとても綺麗！ただ、坂道にあるので荷物が多いときはタクシーで行ってください。
- ・シドニー空港からセントラル駅までタクシーで行くと 90 ドルくらいかかりました (;ω;)

バス利用編

- ・メインの交通機関はバスです

<http://www.131500.com.au/plan-your-trip> で、どのバスにいつ乗ればいいのか調べられます。 & Google map で道なりを見ておくとより安心(^ ^)

バスに乗るにはバスカードが必要。1 枚で 10 回分のものを先に買っておいってください！距離によって 3 種類に分けられますが、2 を買うのが安全かな。

※「次は△△です」等アナウンスはないので、ぼけっとしていると...ㄉ

日が暮れるのが早い時期(8 月は早め)は、目印にしている風景が分かりづらくなるので気をつけて！

(/・ω・)/

スーパー編

- ・多くは Coles で買っていました（大学裏少し歩いたところ、寮から 30 分ほど）。
- ・アジア系のもの、卵は東京スーパーへ（Anzac Parade 沿い、寮を出てシティと反対方向に 5 分弱）。
- ・物価が高いので食べ物も高いです。特に魚は日本で十分に食べつくしてきた方がよいです...

(/・ω・)/

思い出編

・おすすめの場所

Park 系はどこも結構素敵。

ビーチに朝早く行くと、運がよければイルカが見られるかも...！

New town AUS 版下北沢みたいな。

・おすすめの食べ物

スイカが美味だった。

MAX BRENNER（大学内にあります）は美味しかった！

つまるところデザート、スイーツは全部美味しい。

・おすすめしない食べ物

マーケットシティの中華は悲劇的に甘い味がします。

(/・ω・)/

寮での暮らし

- ・部屋にあるもの、ないもの

シャワー、キッチン（コンロ、レンジ、お湯沸かすやつ）、エアコンはあります。

ただ、ドライヤー、炊飯器・箸・ざる・計量カップ、加湿器はないです ㍈

洗濯は、1ドルで使える洗濯機が上の階にあります（8:00～22:00）

乾燥機もあるけど使うと縮むらしいです！

- ・洗濯物

ドアの上の方にあるクニってところとクローゼットのノブにロープを結びつけ、洗濯物をそこに干すのがおすすめ。

- ・寮内でのネット使用

ひと月 5GB、25 ドル。前払いで使えます。寮内でネット開いた際に最初に出るページに沿えば OK。カード払い可能です。

(/ ・ ω ・)

8, 9 月のシドニー

- ・気温

昼夜の寒暖差が激しい！常に上着はあった方がよいです

8 月は暖かめの上着（コート、ダウン）が必要

9 月は、私たちが行ったときは若干暖かったようで、日は 30 度に迫る日もありました

- ・天気

基本晴れています 降るときは思いきり降ります、寒い（泣）
風は若干強めですかね。

- ・乾燥

シドニーの冬は日本の冬以上に乾燥してます ㍈

洗濯物を干したり加湿器つけたりクリーム塗ったり日常的にポップコーン作ったりして粘膜を守ってください。

☺実習を通して学んだこと

<チョナレ>

1. 実習の成果

今回の実習の成果として思うのは、120 分の授業を実際に企画・運営してみた貴重な経験ができたことはもちろん、日本語教師としての生き方を学び、深く考えさせられたことである。私が今まで見てきた、そして受けてきた日本語授業の形態は、運用能力を伸ばすためだったり試験対策といった「日本語を学ぶ」ための授業だったが、今回の実習では「日本語を媒介として人間力を育てる」ための授業を体験でき、そのための日本語教師の役割を考えるようになった。

海外で日本語を学ぶ学生は何を求めているか、また、海外（オーストラリア）で日本語を教えるときに大事なことは何かについて考えた際に、UNSW の日本語コースでは日本語学習者や日本語使用者で構成される実践コミュニティを形成することで、日本語を媒介とした社会への参加を促していた。UNSW の日本語コースというコミュニティに入った学習者は、日本語で自分を表現する力をつけることで、次第に日本語を使って主体的に自分を取り巻く社会の一員として参加することになる。このような理念が授業のレベルでも充実に具現化されていたので、今回の実習を通して、授業を企画する際には常に目標を意識することが大事であることに気づき、また、理想を授業のレベルで実現できる可能性を見ることができた。

実習に行く前は「学習者が楽しく気楽に自分の考えを述べられる授業をしたい」という漠然として持っていたイメージが、それ以上の目標を意識することで、自分が理想と思う「日本語の授業」ひいては「ことばの授業」が明確化されたように感じる。また、実習前は非母語話者である自分一人で Advanced class を担当することに不安を感じていたが、私の学習経験を共有できることを UNSW の学生たちが肯定的に受け入れてくれたので、とても嬉しく自信にもつながった。私自身も授業の準備や実行、学生とのコミュニケーションの中で学ぶことが多く、とても充実していて楽しい時間を過ごせた。

2. 今後の課題

実習中は、時間の配分に失敗してまとまりのない授業になったり、自分の英語力不足で文法や語彙の意味の説明がうまくできなかつたりすることが多かった。授業を行う前のシミュレーション力、授業中の臨機応変力や決断力に限界を感じたと同時に、これから鍛えていくべき課題も見えてきたと思う。

3. 今後に向けて

実習前の事前研修や加納先生の授業から、実習後の実践報告までとつながる一連の過程で得た学びが、今も他の出来事と結びついて新しい気づきをもたらしてくれる。日本語や日本語教育を媒介としてつながっている大きいコミュニティに属していることを今も実感している。今回の実習を通して得たこの貴重な気づきを忘れずに、今後の教育活動に活かしていきたい。

＜大西はんな＞

1. 実習の成果

今回の実習を通して、日本語教師という仕事についてや、日本語を教えるということ、学習者との関わりなどについて改めて考える機会を得た。

特に、実習を経て、学習者に対する教師の役割・在り方を考えるようになった。それまで教師というのは「教える人」というイメージが強く、文法を教える事や授業を円滑に進める事にばかり気を取られていた。頭の片隅では学習者の事を考えていたつもりだったが、実際に授業中、学習者がどのように学び、どのような事に興味をもち、そして、どのような日本語話者になりたいのか、という事は考えていなかった。与えることに精一杯で、学習者が求めるものに気付いていなかった。ただ一方的に与えるのではなくて、学習者の必要とするものは何なのか考え、学習者の学びの手助けができるようになりたい。

また、助け合える仲間の大切さを改めて実感した。教師というのは一人で準備をして一人で授業をするのが普通だと思っていた。しかし、UNSW で、Jr 先生や他の実習生と準備し授業をしていく中で、教師側にも複数の人間がいる事の良さを知った。教案を作る時も授業をする時も一人では気付けない事に気付いたり、自分の足りない部分をカバーしてくれたり、信頼できる仲間がいる事で安心して授業をすることができた。事前研修の当初から言っていた「一人じゃない」ということを実感した。仲間がいたからこそより多くのものを得ることができたと感じている。

2. 今後の課題

今回の実習は私にたくさんの学びや気付きを与えてくれた。その中で当然自身の課題も見えてきた。中でも、実習を通して改めて感じたのは自身の知識不足である。文法に関しても、日本や日本文化に関しても、知識不足を痛感することが多々あった。文法知識に関しては更に勉強し知識を深めると共に、それを学習者に伝えるにはどうすればよいのかについても考えていく必要があるなど感じた。日本や日本文化に関しては、日本人だからこそあまり興味が持てなかったり、知っているが高を括っていた部分があった。けれども、日本について日本人であっても知らないことがたくさんあるのだなと気付かされた。いろんなことに興味を持って常に勉強し続けていきたい。

3. 今後に向けて

元々海外で日本語教師として活躍したいという思いはあったが、実習を通してその気持ちが強くなった。日本や日本語に興味を持ってくれている学生と接している時が私にとっては一番楽しい時間なのだ、と改めて感じた。今回の実習で得た事を他の現場でも生かせるよう、今後も精進していきたい。また、研究者としても、日本語教育に貢献できるような研究ができればと考えている。

＜平井えり＞

1. 実習の成果

実習をとおして、日本語教師志望者としてだけでなく、人間としても成長できたと思う。普通こういった場では、実習に参加したことで「綿密に練られた教案を書けるようになった」とか「素晴らしい授業を行えるようになった」とか「こういうことを頑張って目標を達成した」といったことを書くべきなのかもしれない。しかし、私が実習を振り返ってみると、純粋に私だけの努力による成果というものは思いつかず、代わりにお世話になった方々の顔が思い出されるのだ。そして、そのお世話になった方々への感謝の気持ちでいっぱいになる。というのも、私が逃げることなく実習を終えられたのは、先生方、他の実習生、ジュニア先生、学習者の皆さんのおかげであると感じているからだ。教案を考えると、教壇実習をしているとき、日本語の授業に参加しているとき、体調を崩したとき、「私は一人じゃない」と感じられた。また、UNSW の日本語クラスは、教師や学習者を始めとするさまざまなコミュニティ・メンバーの助け合いによって成り立っている。当然のことではあるが、皆それぞれ「自分らしく」コミュニティに参加すれば良いのだ。こういったことがたいへん心強く、またそこから良い刺激を受けることができた。実習の成果として挙げられるのは、漠然としており、また日本語教師的な面ではないが、「さまざまな構成員から成るコミュニティ内に存在する自分」というものを意識できるようになったことではないかと思う。これは、自分一人の力では達成できなかった。

2. 課題

課題としては、体系的な文法知識の不足が挙げられるであろう。また、自分の文法知識を授業においてどのような方法を用いてアウトプットしていけば効果的なのかというような理論についても明るくない。日本語教育を学び始めて日が浅いということもあるが、理論と実践の両方に手を抜かず向き合っていく必要があると考える。

3. 今後に向けて

この原稿を書いている時点では、今後についてはまだ深く考えられていない状況である。目の前の課題に焦る気持ちもあるが、実習での経験や感謝の気持ちを忘れず精進していきたい。

＜松川 彩＞

1. 実習の成果

実習を通して学んだことは、日本語教師の役割は文法を教えたり、練習させたりすることだけではなく、学習者と関係を作り、学習者同士の関係を作り、クラスをマネジメントしていくことも重要であるということである。実習前や実習開始当初には、文法をいかに教えるかということやその日の教案をこなすことで必死だった。そのせいで初めて授業を行ったとき、自分が次にすべきことしか頭になかったため、飯田先生や先輩（勉強メイト・ジュニア先生）がどのように動いて、何をしてもらえばいいのか、ということは何も考えていなかった。Intermediate の Tutorial のクラスはグループを基本としていたため、授業の練習などは、グループで行うことが多かったが、グループ活動から全体に戻るときの締めもなかったため、学習者から見れば、今なにをすべきなのかよく分からない授業になってしまっていたと思う。そこから、自分の動きはもとより、学習者やサポート役の先輩や先生など、学習者全体、クラス全体をどう動かすのかということを考えて教案を立てたり、授業を行ったりする必要性を感じ始めた。全体の動かし方を考えることで、同時に、学習者一人ひとり、また個々のグループの個性を把握し、それぞれにどうサポートしたらよいかということを考えるようになった。自分が「教える」ということだけを考えていたら、気が付かなかった点であると思う。

こうした学びが得られたのも、UNSW の日本語コースの特色のおかげであると思う。グループ活動を基本とし、それぞれのグループ、そしてクラス全体をコミュニティとして考えるからこそ、より一層そのコミュニティをどうまとめようかと考える必要性に迫られたのだと思う。この成果を UNSW 以外の現場や一人の大人として将来につなげていきたい。

2. 今後の課題


今回の実習で、もっとも課題だと感じたのは、文法や文化に関する知識の不足である。自分が担当した授業中に、学生が発言した際、明らかに文法的に間違えていても意味が伝わったため「まあいいか」とフィードバックしなかったのだが、すかさず先生がフィードバックを与えたという場面があった。先生は、文法的な説明を的確に行い、なぜ間違っていたのか、ということをお学生に伝えていた。私がフィードバックを行えなかったのは、コミュニケーションが途切れてしまうことを恐れたためであり、さらにいえば、母語話者としての直感でしか指摘できなかったためであった。学生の前に立って、日本語を教える立場であるのにも関わらず、自分には母語話者としての知識と母語話者としての態度しかとれなかったことが大変悔やまれた。教師であるならば、知識がなければならないし、学習者は教室に学びに来ているのであって、何となく母語話者とのおしゃべりに来るのではない。そのため、日本語教師としてもっと知識を蓄える必要性を実感した。

3. 今後に向けて

課題でも書いた通り、まずは知識を蓄えることが必要であると考えている。そして、UNSW で学んだ多くのことを、別の現場や日本語教育以外の場面でもできるだけ生かしていきたい。

<山崎香緒里>

1. 実習の成果

今回の実習の成果として、まず一つ目は自分が持っていることばや文化を客観的に見つめるようにしたいと思うようになったことである。今まで日本語や日本文化を見つめる機会はほとんどなかった。そのため、例えば「は××です」という基本的な構文はどう使うのか質問を受けても、「これは鉛筆です」のような使ったこともないような例しか思い浮かばなかった。しかし、本当はこの構文も周りにあふれている。「次は茗荷谷です」「お手洗いは二階です」などよく聞いたら使われている。文化の面では、日本ではどんな価値が重要視されていて、学習者がもし日本人と会ったらどこで評価されるのか、ということが UNSW のクラスでは自然に取り入れられていて、学習者にも伝わっていたように思う。例えば文字の書き方は厳しく指導されていた。丁寧な文字を書くかどうかは日本では評価に関わることを伝えていた。私は日本の文化で何が評価に関わるか、何が大事にされるのかなどを考えたこともなかった。自分はきちんとできるかもしれないが、教師としてはそれではいけない。もちろん押し付けるわけではないが、学習者が不利益をこうむる事がないように伝える義務がある。そのためにもまずは自分の当たり前を見つめなおすことから始めたいと思った。

また、クラスは教師が一人で作るものではないということも学んだ。実習が始まったばかりのころ、先生方に「どこを日本語で、どこを英語で説明したらいいですか」と質問した。先生は「学生に何が大事かを考えたらわかるはず」と答えてくださった。さらに、「助けてくれる人はたくさんいるから、自分がどうしたらうまくいくかより学生の様子をよく見なさい」とアドバイスをいただいた。教師は一人で授業を進めていくという考え方は捨てようと思った。一人でうまく進めることが学習者のためになるわけではない。学習者や学びを共有する仲間がいて良い授業が出来上がっていくと実感できた。また、一生懸命にたのしそくに学んでいる学習者から、自分の学びについても考えさせられた。教師は決して「教える」という一方的な存在ではないことも学んだ。

2. 今後の課題

今回はコミュニティで学ぶという体制を整えていらっしゃる現場にその一員として受け入れていただくことができた。チームの一員となる際、私がその中でできることは何なのかということをこれから考えていきたいし、またできること、得意なことを増やしていきたいと思う。チームの中にいるということは他のメンバーと助け合うことであり、学びあうことだと感じた。良い学びを作るチームに入るために自分の得意なことを知っておく必要と、得意なことを増やす必要があると思う。

3. 今後に向けて

将来的には教師になりたいと強く思うようになった。また、これから進めていく研究は学習者がいることを前提にしたものにしていきたいと思う。誰かに楽しいと思ってもらえる授業や研究ができるように、自分も学び続けたいと思う。

＜永田 祥＞

1. 実習の成果

私がこの実習で得たものとして、まず、「生徒」というものを深く考えるようになったということがある。私にとってはこの UNSW 実習が初めての教育現場であった。今まで微々たるものながらも日本語教育に関する勉強をしてきたが、自分がどのように教えるか、ということにとらわれすぎていたように感じる。UNSW の先生の「学生を信じる」というお話を聞き、また様々な学生と関わる中で、どう教えるか、ということよりも生徒がどのように学んでいて、自分はそこにどう関わっていけば良いか、ということに焦点を当てるようになった。これは座学でなく実際に教育現場に行かなければ分からない、とても大事なことだったと思う。

また、大学院を目指す学部生として、大学院生の方と一月半ともに過ごすということも、私には大きな経験であった。大学院でどのようなことを学び考え、今後のことをどのように考えられているのか、断片的ながらも聞くことができたのは、自分の将来について具体的に考える良いきっかけとなった。

2. 今後の課題

課題として感じたのは、まず生徒との距離感の取り方である。私はこの教育実習に実習生として参加しながら、NSA と学生としての交流をしていたため、特に対生徒という距離と、対友人という距離の切り替えが難しかった。また、「学部生」から抜け出せなかったことも課題の一つにある。知識量が圧倒的に足りないのは勿論のこと、院生さんに何もかも頼りきってしまった。

3. 今後に向けて

私は将来大学院に進学し、後に日本語教師として実際に教える仕事に就きたいと考えている。そのため今回の実習は、初めて教育の中に入り、先生方、学生たち、院生さんたちと関わることができ、将来の自分を考えるうえで非常に大きなものだったと感じる。分かったこと難しかったこと含め、得たものは多く、大きい。何より「自分は日本語教師になりたい」と再確認できた。

知識、社会経験、様々なものが自分には足りず、とにかくすべてを吸収し咀嚼することが当面の課題である。

～実習生のみなさんへ～
UNSW、そしてこれから

加納 なおみ
(グローバル教育センター・助教)

大西はんなさん、平井えりさん、松川彩さん、山崎香緒里さん、チョナレさん、永田祥さん、UNSW での実習修了、おめでとうございます。この報告書作成を経て、文字通り、実習の一連の活動も終わりますね。お疲れさまでした。海外での実習という大仕事を夏に据えたこの1年は忙しくも達成感に溢れた年だったのではないのでしょうか。UNSW での7週間は過ぎてみるとあっという間だったに違いありませんが、その間、皆さんは計り知れないほどの変化、成長を遂げたことでしょう。2013 年度前期「日本語教育実習」クラスの指導担当として、皆さんと学びの場を分かち合うことができ、私もとても嬉しく思います。

2013 年度から始まった「日本語教育実習」クラスは、夏の海外実習参加者の必修科目であると同時に、日本語教育コース在籍者全員に開かれたクラスのため、総勢 11 人で行いました。前年の UNSW 実習参加者の佐々木さんが加わり、またオリガさんが TA をしてくれたこともあって、心強いスタートでしたが、反面、人数が多く、また UNSW 実習に特化した準備ではなく、一般的・基礎的な内容を扱ったので、どれほど皆さんのニーズや期待に応えることができたか、振り返ると心もとない気がします。そんななか、皆さんは2回の模擬実習の準備と実践で、自分自身の壁を破ろうと、果敢に挑戦する姿を見せてくれました。UNSW 実習参加者のバックグラウンド、教師としての経験は様々で、ほとんどの人たちが本格的に日本語を教えるのは初めて、実習クラス開始時には日本語を教えるクラスを見たことがない、という人もいましたね。しかし、教案作成から模擬授業まで、一人一人が豊かな個性を発揮して取り組み、熱意と工夫にあふれた授業を展開してくれました。皆さんの意欲、向上心が互いを刺激し合い、また協力し、支え合って、一人ではできない学びを実現できたのではないかと思います。

それでも、UNSW の現場では、教室での模擬実習が役に立たない、異次元の体験をしたであろうことは想像に難くありません。皆さんは、「準備したことが使えない」「思ったように伝わらない」「予想した反応と違う」等々、生身の学習者を前にして、現場特有の様々なジレンマに直面したことでしょう。そして、それらを自分なりに乗り越え、7週間の実習を成し遂げるには、いろいろな局面があっただろうと思います。皆さん一人一人のそういった学びの成果は、今後ますます、様々な形で生かされるに違いありません。UNSW での実習を通して得た経験への感謝を忘れず、さらなる飛躍を遂げてくれることを大いに期待します。先入観を持たずに、目の前で起きていることを把握し、必要であれば自分のやり方を変えることを恐れない、変化を起こすことのできる人材となって、活躍してください。その力は、多言語多文化化の進む日本社会を内側から変える力にもなれば、外国で現地に溶け込み、新たなコミュニティ作りに貢献する力にもなるでしょう。

最後になりましたが、7週間にも渡り、本学の実習生を受け入れ、きめ細かくご指導くださいました UNSW の諸先生方、またプログラムの成功のためにお骨折りいただいた現地の関係者の皆様へ、心より御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

～実習生のみなさんへ～
「感性」と「好奇心」を持ったフツーの人たれ！

奥村 三菜子

(グローバル人材育成推進センター・特任アソシエイトフェロー)

5月、初めて事前研修を行った日の夜、帰宅途上に感じたこと。「堅い...、カチカチだ...。あの彼女たちを、どうやってユルユルにしてやろう...？」

6月、一人ひとりの個性が顕著に現れ始めた頃、お風呂の中で考えたこと。「だいぶユルユルになってきたな...。さて、ここらで一度、一気に締め上げてみよう！」

7月、出発まであと一か月の暑い暑い夜、そうめんを茹でながら思ったこと。「ずいぶん日本語教師っぽい顔つきになってきたなあ。最後にもう一度まっさらな白紙に戻してから出発させねば...。」

事前研修最終日の7月24日、ちょっとお疲れで、ちょっと嬉しそうで、ちょっと不安げな顔つきの学生たち。「行っていっちゃい！！」

そして、出発直前のFacebookメッセージ。

皆さん、いよいよ、ぼちぼち、出発ですね。
たくさん泣いて、笑って、落ち込んで、喜んでてください！
帰国後のみんなに会えるのを楽しみにしています♪
事故や病気にだけは十分気をつけて！！
(7月29日)

それから一か月、折り返しの9月初旬に送ったFacebookメッセージ。その昔、日本語教育実習中に、私が指導教師から言われたのとそっくりな言葉が、ふいに溢れ出た。

みなさん、折り返し地点に来て、実習も「もう」半分が終わり、「まだ」半分ありますね。
体は元気ですか？心は元気ですか？
高い青空を眺めていますか？
緑の芝生を楽しんでいますか？
流れる空気を感じていますか？
感性を研ぎ澄まし、心に少しのゆとりを持ち、自分の大きな笑顔を楽しむこと。
そこから生まれるユニークな発想。
そこから得られるとてもとても大きなエネルギーと知力。
「考える」こと以上に、「感じる」ことを大切に、
そして、自分の夢と理想を大切に、残りの半分以上を懸命に疾走してください。
9月末の再会を、楽しみにしています！
(9月3日)

10月3日、帰国報告＆打ち上げ飲み会の後、自宅でビール片手にお土産にもらったカンガルー・ジャーキーをかじりながら、心をよぎる四つの願い。その1「感じる心を磨き続けるべし」、その2「好奇心を失うべからず」、その3「フツーの人間でいるべし」、その4「今度出会う時は、ぜひ仲間として共に研鑽しましょう」！

おわりに

山崎 香緒里

今回の実習のキーワードは「ひとりじゃない」。実習やその前後の様々な場面でこのことを実際に感じ、多くの方々の助けにより大きな学びが得られたことに本当に感謝している。

今回参加した実習生にとってこの実習はどのようなものだったのだろうか。ひとりひとりの考え方や立場はもちろん異なり、実習がどのような存在であったかに差異はあるだろう。しかし、実習生全員にとって形は異なるかもしれないが将来への希望が見いだせたことは確かなのではないかと思う。

私たちは実習の2か月間 UNSW の日本語教育に携わるチームの一員として受け入れていただくことができた。日本語教育経験の少ない、または全くない私たちはプロの先生方と、しかも海外で教育の場に携われることなどほとんどない。しかし、今回のような機会をいただいたことでプロの日本語教師になるとはどういうことなのか考えるようになった。ただ日本語が話せて日本文化のこともよく知っているというだけではなく、「教師」として教育現場に立つとはどのようなことなのか考えるきっかけを与えてもらった。

UNSW では先生方が一つのチームとして動いていらっしゃるのがとても印象的であった。さらに学習者も、先生から一方的に「習う」という立場ではなく、レベルが上がれば日本語学習の先輩としてクラスに入り後輩の学びの手助けをしたり、また後輩の一生懸命な学習態度が先輩の学習の動機づけになったりと、レベルを超えた協力体制が構築されていた。このような環境で、私たちは教師对学习者という見方ではなく、コミュニティ全体でよい学びを作っていくことの重要性に気づかされた。UNSW の先生方のおっしゃる Community of Practice を私たちもコミュニティの中の存在として経験できたことは私たちのこれからにとって、とても大きなことであったと思う。

このような経験を通して、特に大きな変化があったのは、私たちの学習者に対する考え方であった。実習前は、どのように文法項目を導入するか、アクティビティはどのようにすれば失敗せずにできるのかなど、自分がどうしたらいいのかということを中心に考えがちであった。しかし、現場の先生方からのご指導や学習者が一生懸命に楽しく学んでいる姿から、学習者がどのように、いつこの項目を使いたいと思うのか、また学習者がこれからどんな日本語話者になりたいのかなど学習者を中心に考えて授業を組み立てることの重要性を学んだ。はじめは、学習者がどのように反応してくるのか不安だったり、うまくできなかったときのことを想像して怖くなったりしたこともあった。しかし、学習者一人一人が得意なことを持っていて、良い学びを共につくるコミュニティの一部なのだと感じられるようになり、教師は一人で授業をしているのではなく学習者を信じて活発な授業を支える役割を担っているのだと考えるようになった。

また、プロの先生方の仕事を間近で見て、さらに同じ現場に立たせていただいたことで、自分たちの足りない部分が具体的に見えてきた。日本語のことば自体に対する知識はもちろん、それぞれの表現が誰に、いつ、どこで、どのように使われるものであるのかという

知識、さらに言語の背景にある文化の存在にも着目すべきだという意識の不足に気づかされた。また、JFL 環境であったため、自分たちの発言一つ一つが学習者にとっては貴重なインプットになるということも知り、教師として学習者にどのように日本語と接触する場面を効果的に与えられるか、という意識も不足していたと感じた。これらは単に日本語話者として過ごしているときには考えもしなかったことであった。教師として言葉や学習環境を見つめることは容易ではなく、自分の力不足に失望することもあった。しかし、先生方、学習者、また一緒に実習に参加した仲間からの助けや励ましが大きな力になり、よりよい教師として教育現場に立てるよう日々精一杯に過ごすことができたと思う。

実習前後も含め、今回の実習ではたくさんの方にお力添えいただき、日本語教師という職業の魅力を感じ、またこれから私たちがどうしていくのかという決断に大きな影響を与える経験ができた。昨年から再開された実習を今年も実現してくださり、また私たち実習生を常に見守ってくださった森山先生、日々の教育でお忙しい中、経験もない私たちをコミュニティの一部として受け入れ、また指導してくださったトムソン先生をはじめとする UNSW の先生方、そして私たちの授業を受け、また支えてくださった学生の皆さん、事前・事後学習でたくさんの気づきを与えてくださった奥村先生、実習前の実践的な授業を用意してくださった加納先生、寮でお世話くださった Vicki さん、そして、2 か月間共に努力し、大きな支えになってくれた実習生の仲間たちに心から感謝申し上げます。

【付録】

*Week4 「大きい数字」の教案

— 45 —

8 分	Activity5 の確認	S : にひゃくです。	ペアが終わったら止める。) T : はい、いいですか。 じゃあ、1 番、〇〇さん、 どうですか？ (1 番から 15 番まで同様に繰り返す) (時間を見て調整)		るかよく見る (戸惑っている 学生がいたら 指示)(奇数の グループには Jr 先生に行っ てもらうよう にする。)
	Activity6 に移行する	S : ひゃくたすにひゃく はさんびゃくです。	T : はい、じゃあ、 activity6 をしましょ う。Example を読んでく ださい。	教科書 p54 Act6	例を黒板に書 く。
	記号の読み 方の確認		T : plus は「たす」です。 Minus は「ひく」です。 For Equal, we use the particle 「は」 . では、 これもペアで練習しま す。example を見てくだ さい。私と山崎先生で example をします。山崎 先生、ひゃくたすにひゃ くは？ 山崎 : さんびゃくです。 では、みなさんもペアで 練習しましょう。Please make pairs with different person. では始めてください。		「－」を書く
	Activity6 の例を示す 【大きい数字 が言えるよう になる】	S : (Example を見る) S : (ペアで練習する)	(様子を見てだいたいの ペアが終わったら止め る) T : はい、では、1 番を 〇〇さんと××さん(違 うテーブル同士) T : じゃあ〇〇さん、××		きちんとペア になっている か、練習してい るかよく見る (戸惑っている 学生がいたら 指示)(奇数の グループには Jr 先生に行っ てもらうよう にする。)

10 分	<p>Activity6 の確認</p> <p>次の Activityに 移行する</p> <p>Activityの 例を示す</p>	<p>〇〇：_____たす__ は？ ××：_____！</p> <p>S：：(ペアを作る。)</p> <p>S(Aさん)：手を挙げる</p> <p>S(Aさん)：(30 ページ を見る)</p> <p>S(Bさん)：手を挙げる。</p> <p>S(Bさん)：(29 ページ を見る)</p>	<p>さんに聞いてください。 (時間を見て調整)</p> <p>T：みなさん、よくでき ていますね。では、もう ひとつ activity をしま しょう。ペアを作ってく ださい。Please make pairs with different person. (みんなペアになった ら)</p> <p>T：では、左の人はAさ んです。右の人はBさん です。</p> <p>Aさん！Please raise your hands. Aさんはコ ースノートの30 ページ (スーパーおとくや)を 見てください。そして、 Bさん！please raise your hands. Bさんは コースノートの29 ペ ージ (スーパーやすいや) を見てください。Don’ t show your page to your partner. では、私と Jr.先生でexampleをし ます。私はAさんです。 Jr 先生はBさんです。 T：Jr.先生、スーパーや すいやのトマトはいく らですか？ JR：390 円です。 T：そうですか。 JR：じゃあ、おとくやの はいくらですか。 T：450 です。</p>	C/N p29-30	<p>きちんとペア になっている かよく見る(戸 惑っている学 生がいたら指 示)(奇数のグ ループには Jr 先生に行って もらうように する。)</p>
---------	---	--	---	---------------	--

	<p>【大きい数字を言えるようになる】【値段を聞く】【値段を比較する】</p> <p>Activity の確認</p>	<p>S : (ペアで練習する)</p> <p>S : おとくやよりやすいやの方が安いです。</p> <p>△△ : 330 円です。</p>	<p>JR : ああ、そうですか、どうも。</p> <p>T : Please write down price, and at the end of the work, compare the price. では始めてください。</p> <p>(様子を見てだいたいのペアが終わったら)</p> <p>T : はい、ではみなさん、しょうゆ、見てください。しょうゆはおとくやとやすいやとどちらのほうが安いですか。</p> <p>T : いくらですか？では…△△さん</p> <p>(時間によって調整)</p>		<p>書く振り</p> <p>書く振り</p>
5 分	<p>音読の練習をする</p> <p>読めているかの確認</p>	<p>S : (コースノート p21 を開ける)</p> <p>S : (p21 を読む)</p> <p>〇〇 : (1 文めを読む)</p>	<p>T : では皆さんコースノートの 21 ページを開けてください。</p> <p>ではみんなで読みましょう。</p> <p>(p21 を読む)</p> <p>(一文ずつ指名して読んでもらう)</p> <p>では、1 つめの sentence を読んでください…〇〇さん。</p>	C/N p21	<p>時間を見て調整</p> <p>皆が口を動かしているかチェック。</p> <p>全体で読んだ時にあまり口が動いていなかった人などを指名する</p>

尊敬(そんけい)語／謙譲(けんじょう)語

Q: 尊敬語(honorific)と謙譲語(humble)のちがいはなんですか。

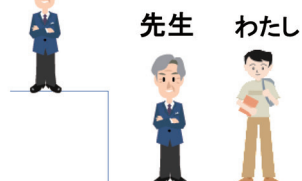
* 例(れい) *

読む

尊敬語: お読みになる 謙譲語: お読みする



先生 尊敬(そんけい)語

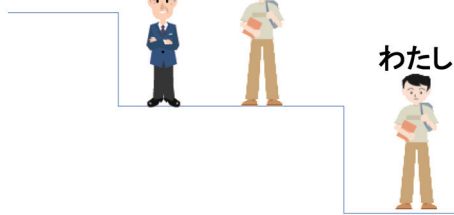


先生が本をお読みになります。



謙譲(けんじょう)語

先生 わたし



私は、(先生のために)本をお読みします。



ていねい語

◆コースノート p74, 教科書p480～

◆名詞(めいし / noun)+ご／お

- * おすし、おなべ、お客、お名前、お電話、お仕事、お勉強
- * ご住所、ご家族、ご病気

◆形容詞(けいようし/adjective)

おきれいな、ご親切な、おやさしい・・・

◆あれ⇒ それ⇒ それ⇒



尊敬(そんけい)語

◆Regular お／ご+Verbますstem+になる
お／ご+action noun+なさる

- 読む お読みになる
- つかう おつかいになる
- うたう おうたいになる
- 待(ま)つ お待ちになる
- 食事する お食事なさる お食事なさいます
- 料理する お料理なさる お料理なさいます



尊敬(そんけい)語

◆Irregular

- 食べる めしあがる
- 行く いらっしゃる／おいでになる
- 来る いらっしゃる／おいでになる
- ～だ ～でいらっしゃる
- 言う おっしゃる おっしゃいます
- する なさる
- 飲む めしあがる



- 先生や先輩のことをほかの人に教えます。

例

* 私は、7月29日にシドニーに来ました。

⇒松川先生は、7月29日にシドニーにいらっしゃいました。



謙譲(けんじょう)語

◆Regular お/ご+Verbますstem+する/いたす

- 読む お読みする／お読みいたす
- てつだう おてつだいする／おてつだいいたす
- 持(も)つ お持ちする／お持ちいたす
- 待(ま)つ お待ちする／お待ちいたす
- 送る お送りする／お送りいたす
- 作る お作りする／お作りいたす



謙譲(けんじょう)語

◆Irregular

- 食べる いただく
- 行く まいる
- 聞く、訪問(ほうもん)する うかがう
- 会う お目にかかる
- 言う 申(もう)す
- 見る 拝見(はいけん)する
- 思う ぞんじる



◆こんなとき、どうしますか。

《グループで1つえらんでください。》

みなさんは、先生の部屋に行きます。

①留学をしたいけど、なにもわからないので、先生に相談したいです。

②スピーチのドラフトを書いています。これでいまいかがわかりません。もっといいドラフトを書きたいので、先生の意見を聞きたいです。



◆よく使うことば

- ご都合(つごう)(ご都合はいかがですか)
- ご相談(ご相談があるのですが)
- お時間
- よろしいでしょうか。／よろしいですか。
⇒いいですか
(今、お時間よろしいでしょうか。)
- ～てもよろしいでしょうか。⇒～てもいいですか。
(おうかがいしてもよろしいでしょうか。)
- あとで、ご連絡いたします。



先生と先輩に質問しよう！

- 近くにいる、先生と先輩に聞きたいことを質問します。

①だれに聞きますか。⇒先生か先輩2人

②なにを聞きますか⇒2～3つ質問

- 聞いたことを、まとめて発表する。

例)松川先生は、7月29日にシドニーにいらしゃいました。でも、来週の火曜日に日本にお帰りになります。



Advanced Japanese の実習資料

* Week5「会話文 1,2 の読解、関連アクティビティ」の教案

時間	活動内容	教師の働きかけ	使用教材
5 分	会話文 1 読解の前にウォーミングアップ	<ul style="list-style-type: none"> • 単語の意味確認(大家の意味など) • オノマトペ • 困っていることについて相談するときのストラテジー 	1_会話文 1.pdf
2 分	単語表の語彙を読む	• 教師が読むと、学習者が続いて読む	教科書 165p (単語表)
3 分	会話文 1 を聞く	• 「談話ストラテジー、スピーチレベル、オノマトペ、文法」に注意して聞くように。	<ul style="list-style-type: none"> • 1_会話文 1.pdf • Audio file
5 分	会話文 1 説明	• 談話ストラテジー、スピーチレベル、オノマトペを中心に説明していく。	1_会話文 1.pdf
5 分	会話文 1 読み練習	• 学生がマイクの台詞を(皆で)読み、教師が大家の台詞を読む。	
10 分	ロールプレイ (困った状況について相談する)	<ul style="list-style-type: none"> • タスクの説明 • ペアで練習 • 二組ぐらい前に出て発表する。 	2_discourse.ppt (教科書 167p のタスクを利用したロールカード)
5 分 休憩			
10 分	会話文 2 ウォーミングアップ	<ul style="list-style-type: none"> • 血液型占いについて • 血液型別性格について 	3_Blood type.ppt
3 分	会話文 2 を聞く	• 「スピーチレベル、性格を表す言葉、文法」に注意して聞くように。	Audio file
7 分	会話文 2 内容確認	• スピーチレベル、文法を中心に説明していく。	4_会話文 2.pdf
10 分	会話文 2 読み練習	• ペアで読んでみる。	教科書 164p
10 分	アクティビティ	• PPT を見ながらペアで性格診断テストを行う	3_Blood type.ppt

* Week5 の使用教材

「1_会話文 1.pdf」の一部

[談話ストラテジー \(discourse strategy\)](#)

[スピーチレベル \(大家—マイク\)](#)

文法ノート

オノマトペ

こま じょうきょう せつめい く じょう ふ へい い
困った 状 況 を説明する／苦 情 や不平を言う

お お や か へ や
＜マイクが大家さんに借りている部屋
じょうきょう せつめい
の 状 況 について説明する＞

マイク: 大家さん、ちょっとよろしいですか。

大家: ああ、マイクさん、こんにちは。どうしましたか。

マイク: あのう、ちょっと困ったことがあるんですが…。

大家: また、どこか壊れたんですか。

マイク: いえ、そうじゃなくて、あ、それもあるんですが
…。

じつ となり ひ こ き がくせい よ な か
実は、先週隣に引っ越して来た学生が夜中にうる
さくて、寝られないんですよ。

大家: ああ、小林君ね。

マイク: ええ、毎晩友達が来て、夜中まで大声で

話すし、音楽はうるさいし、階段を

上がり下りするし。この間、一度注意したんです

けど、全然静かにしてくれなくて…。

困った状況を説明する

今話していいか許可(きょか、permission)をもらう

- すみません、ちょっとよろしいですか。

状況を説明する

- 実は、ちょっと困っているんです。
- ~なんです(が...)

お願いをする⇔お願いにこたえる

- ~いただけませんか ⇔ わかりました／
~ならできますよ

話を切り上げる

- ありがとうございます。
- じゃ、すみませんが、よろしくお願いします

やってみましょう

日本語の教科書を買いに
大学の本屋に行きましたが、ありませんでした。
他の本屋にもありません。
この状況について先生に
相談してみてください。

学生

学生が大学の教科書をど
こでも買えないと相談して
きました。
状況を聞いて、大学の本
屋に電話するなど、対策
を考えてあげてください。

先生

大西はんな、平井えり、松川彩、山崎香織里、永田祥 ocha2013unsw@gmail.com
お茶の水女子大学(人間文化創成科学研究科、文教育学部)

2013年8月上旬から9月中旬にかけて、約7週にわたり、オーストラリア・シドニーのニューサウスウェールズ大学(以下、UNSW)の日本語コースにおいて実習を行った。実習前、1学期間にわたり週1回の事前研修を行い、実習後は数回の事後研修を行った。実習期間は、大西、平井、山崎、永田が初級クラスで実習を行い、松川が中級クラスを担当した。担当のクラス以外にも、他のレベルのクラスや日本研究のクラス、また、日本文化に関するクラスなど様々なクラスに参加できた。さらに、週に1度、日本語コースの専任講師とのミーティングが開かれ、週ごとの反省や教師としてのあり方について考える機会を得た。

分析方法: KH-coderによるテキストマイニング

事後 分かった事	事後 分からなかった事
学習者 .187	不安 .122
教師 .114	教育 .104
大切 .104	自分 .091
興味 .066	現場 .064
日本 .042	日本語 .051
助け合う .035	将来 .044
信じ .035	距離 .044
文化 .035	UNSW .044
使う .033	連携 .044
環境広変 .026	先生 .042

海外日本語教育実習が自身のキャリア形成に与えた影響 —上級の場合—

チョ ナレ(Cho, Narae) jnalae@gmail.com

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻 博士課程

実習の概要

【事前研修】12回 (13.5.8-7.24)

テーマ	
1回	言葉の授業を振り返る
2回	「協働」について考える
3-4回	日本語接触場面について
5回	初級文型について
6-8回	アクティビティについて
9-10回	初級授業の教案を作る
11-12回	昨年度実習生との質疑応答

研修2回につき1回、事前研修を通して得た気づきを記録

【実習】7週間 (13.8.2-9.20)

実習先: シドニーのニューサウスウェールズ大学
担当クラス: Advanced Japanese Course
実習期間: Semester2のWeek 2~Week8の7週間
授業の主な内容:

Lecture	Tutorial	Lecture	Tutorial
W2 日本人と宗教	自己紹介、読解練習	W6 「オノマトペ	会話・オノマトペ
W3 日本の迷信	会話練習		文法練習
W4 ポップカルチャー	読解・会話練習	W7 日本の教育	会話・読解練習
W5 オノマトペ	会話・文法練習	W8 ジェスチャー	読解・会話練習

Lecture: 80名ほどを対象とする講義式授業

Tutorial: 25名ほどを対象とし、読解及び文型の応用活動を中心とする授業

【実習生の取り組み】

- ・Tutorialで、「読解練習」「文法練習」「会話練習(アクティビティ)」を担当。
- ・実習を行う前に教案・教材を作成し担当教員と打ち合わせを行う。
- ・毎週金曜日に実習生全員で、日本語コースの先生方と反省会を行う。
- ・週に一回、実習の振り返り、見学などから得た気づきを記録

研究目的: 教育実習前の事前研修及び教育実習を通して得た気づきは、自身の日本語教師としてのキャリア形成にどのような影響を与えたかを明らかにする。
分析資料: 事前研修及び実習中に作成した気づきの記録
分析方法: KH Coder*によるテキストマイニング
(頻出語の抽出、実習前・実習中の特徴語の抽出、頻出語・特徴語の共起関係)

*KH Coderとは?

計量テキスト分析・テキストマイニングのためのフリーソフトウェア。入手・インストール・操作が簡単で、すぐれたデータ抽出機能を備えており、Excelなど他のアプリケーションとの連携がよいなど利点が多い(佐野・李 2007)。
詳しくは<http://khc.sourceforge.net/>参照

実習前

1 頻出語_品詞別 (出現数)

名詞	サ変名詞	動詞
自分 (9)	学習 (20)	使う (11)
目的・目標 (7)	授業 (12)	考える (10)
教室 (7)	活動 (8)	話す (5)
言語 (6)	使用 (7)	取り入れる (4)
場面 (6)	意味 (5)	気づく (3)
文型 (6)	意識 (3)	教える (3)
個人 (5)	自立 (3)	立てる (3)
テーマ (4)	実現 (3)	
教師 (4)		
言葉 (4)		
初級 (4)		
メリット (3)		
語彙 (3)		
使い分け (3)		
日本語 (3)		
文化 (3)		

その他
必要 (4)
大事 (3)
重要 (2)
ピアラーニング (4)
楽しい (3)
実際 (3)

4 頻出語、特徴語の共起語

(数値はJaccardの類似性尺度)
*1に近いほど強い共起関係を表す

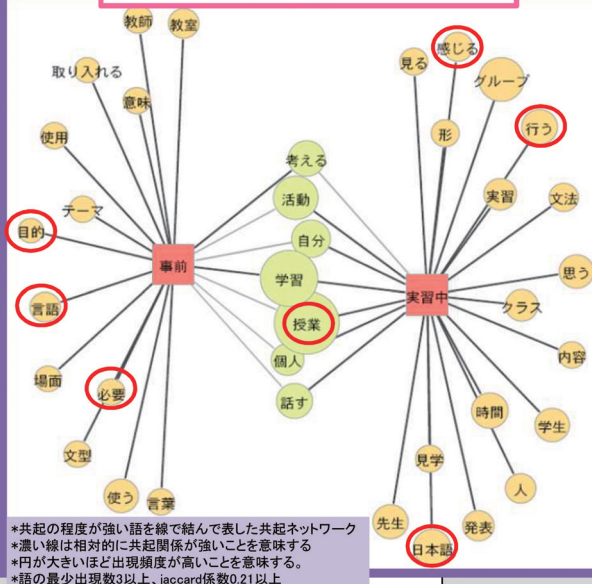
自分	学習(者)	個人
言語 0.2727	教室 0.2778	グループ 0.5
授業 0.1333	活動 0.2105	ペア 0.25
	教師 0.1765	性格 0.25
	考える 0.1304	知識 0.25
	思う 0.125	意見 0.25
	状況 0.125	
場面 0.4286		
考える 0.3333		
提示 0.3333		
準備 0.3333		
使う 0.3		
目標 0.2857		
初級 0.2857		
使用 0.2		

文型
提示 0.5
実際 0.5
場面 0.4286
初級 0.4
語彙 0.4
使う 0.375

言語
使用 0.3333
項目 0.3333
気づく 0.2857
初級 0.2857
使い分け 0.2857
自分 0.2727

教室
独学 0.2857
学習 0.2778
メリット 0.25

3 実習前と実習中の特徴語の比較



*共起の程度が強い語を線で結んで表した共起ネットワーク
*濃い線は相対的に共起関係が強いことを意味する
*円が大きいほど出現頻度が高いことを意味する
*語の最少出現数3以上、jaccard係数0.2以上

実習中

2 頻出語_品詞別 (出現数)

名詞	サ変名詞	動詞	その他
グループ (32)	授業 (51)	行う (18)	時間 (20)
日本語 (19)	学習 (32)	思う (16)	多い (6)
先生 (18)	活動 (25)	話す (15)	楽しい (4)
学生 (17)	発表 (13)	感じる (11)	難しい (3)
自分 (15)	実習 (12)	考える (11)	改めて (4)
クラス (13)	見学 (8)	見る (7)	
個人 (10)	勉強 (7)	使う (7)	
文法 (10)	説明 (5)	入る (6)	
答え (9)	担当 (5)	異なる (5)	
目標 (8)	読解 (4)	学ぶ (5)	
内容 (7)	会話 (3)	受ける (5)	
英語 (6)	作業 (3)	終わる (5)	
言語 (6)	参加 (3)	書く (5)	
教師 (5)	実現 (3)	聞く (5)	
教室 (5)	集中 (3)	決める (3)	
主体 (5)	紹介 (3)	持つ (3)	

5 頻出語、特徴語の共起語

自分	学習(者)	個人
実習 0.2	話す 0.2903	作業 0.3
授業 0.1842	活動 0.2051	判断 0.2
準備 0.1667	思う 0.2	結論 0.2
可能 0.1667	個人 0.1935	意見 0.2
考える 0.1579	考える 0.1563	日本人 0.2
決める 0.1538	発表 0.1481	学習 0.1935
	主体 0.1481	紹介 0.1818

グループ	授業	テーマ
活動 0.6522	行う 0.2308	日本語 0.3571
行う 0.2222	感じる 0.1892	言語 0.2667
先生 0.2143	自分 0.1842	勉強 0.2667
思う 0.1786	先生 0.1667	多い 0.25
人 0.1739	内容 0.1429	学生 0.1905
決める 0.1667	形 0.1429	英語 0.1875
主体 0.1579	見学 0.1389	家庭 0.1429

考察1

1. 実習前の頻出語から 情意的な気づきは見られず、「必要・大事・重要」のような義務的な認識が強い。
2. 実習中の頻出語から 経験による気づきが多い。
3. 特徴語の比較から 「考える→行う」、「言語→日本語」、「目的・場面→授業・活動」のように一般的・抽象的なキーワードが実習中は特定化・具体化されている。
4. 実習前の語の共起関係から:
[自分]: 自分の言語使用に気をつける、自分や周りの言語行動を意識するなど、内面的な部分に焦点を当てている。
[学習(者)]: 教える「対象」としての認識が見られる。
[個人]: グループの中の個人、また、その個人の特性に注目している。
[目的・目標]: 目標は細かく設定した方がいいということ、また、教室活動を考える際には常にその目標を意識する必要があるという気づきを得た。
[文型]: 文型を提示する際は実際の使用場面を考えると。また、場面を提示する際にも目標を意識する必要がある。

考察2

- [教室]: 独学と比べて教室学習のメリットを生かすためにはどうすればいいかを考えていた。
5. 実習中の語の共起関係から:
[自分]: 実習中の自己認識が現れていた。失敗に関する記録が多いが、次の実習に生かすための問題意識としている。また、実習前と比べて行動者としての認識が見られる。
[学習(者)]: 実習前と比べて、個性を持った可変的な存在としての認識が見られる。また、「学習者主体」を実現するための努力が見られる。
[個人]: 上級になるほど個人の判断・意見を持つことが大事
[時間]: 時間配分が教案通りにいかず難しかった。
[グループ]: グループ活動を通して学習者主体をどう実現できるか、グループ活動があまり好きでない学習者をどう参加させるかを常に考えていた。
[授業]: 常に「自分だったらどうか」を意識しながら臨んだ。
[日本語]: オーストラリアは他の言語に加えて第3言語として日本語を学ぶ人が多く、家庭内言語も多様である。

キャリア形成への影響

- ・実習期間中、時間配分やクラス運営に困難を感じることはあったが、それが挫折の要因になるよりは、問題の具体化につながった。
- ・今回の実習及び本研究を通して、日本語教師としての教育観に以下のような気づきがあった。
★教室学習の鍵はグループ活動 ★グループ・クラスを一つのコミュニティにする ★一員としての自分・個人としての自分があることを認識し、主体的な学習を促す必要がある
★教師は教える存在ではなく学びを援助する人

<今後の課題>

- ・研究方法(KH Coder)の面
キーワードからのデータ解釈の限界、類義語の扱い
- ・考察の面
研究者としてのキャリア形成や、教育との両立については考察できなかった。

参考文献: 佐野香織・李在錫(2007)『KH Coderで何ができるか』日本語習得・日本語教育研究 利用への示唆『言語文化と日本語教育』33

＜実習参加者、報告書執筆者＞

チヨ ナレ （博士後期課程 3 年）
大西 はんな （博士前期課程 1 年）
平井 えり （博士前期課程 1 年）
松川 彩 （博士前期課程 1 年）
山崎 香緒里 （博士前期課程 1 年）
永田 祥 （文教育学部 3 年）

2013 年度

ニューサウスウェールズ大学 (UNSW) 海外日本語教育実習報告書

2014 年 3 月 31 日発行

発 行 お茶の水女子大学
 大学院日本語教育コース
 グローバル教育センター
 グローバル人材育成推進センター

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
Tel/ Fax 03-5978-5691

編 集 森山新、奥村三菜子、山崎香緒里
印 刷 三鈴印刷株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-32-1

